

## (4) 学校教育学部

## ① 入学者選抜

## ア 運営・活動の状況

## i) 委員会等の開催状況

入学試験委員会を16回開催した。また、学部入学者選抜に関して3つの専門部会を合計8回開催した。

このほか、入学者選抜方法検討ワーキンググループ（学部・大学院共通）を9回開催した。

## ii) 審議された主な事項

新型コロナウイルス感染症への対応に伴う入試方法等の変更、学部入学者選抜方法の概要の策定、学校推薦型選抜・一般選抜等の実施計画の策定・実施、学生募集要項等の作成、合否判定基準・合否案の作成、大学入学共通テストの実施について審議した。

また、入学者選抜方法研究専門部会において、入学者選抜に関する追跡調査、入試改革前後の比較・分析及び入学者選抜方法の改善に関して調査研究した結果を、「令和3年度入学試験委員会入学者選抜方法研究専門部会報告書」として取りまとめ、学内に公表した。

## iii) 重点的に取り組んだ課題や改善事項及び前年度の検討課題への取組状況等

## ○ 新型コロナウイルス感染症への対応に伴う入試方法等の変更

新型コロナウイルス感染症への対応に伴う令和3年度入学者選抜の入試方法等の変更について、令和2年8月にホームページで公表した。

主な変更内容は以下のとおり

- ・前期日程では小論文のみを課し、実技検査と集団面接を今年度~~に~~限り中止する。
- ・前期日程の試験日を2日から1日に短縮する。
- ・受験機会を確保するため、一般選抜の追試験を実施する。

## ○ 入学者選抜方法の妥当性及び信頼性の検証

入学者選抜方法研究専門部会において、平成23年度から平成31年度までの卒業者を対象として、推薦入試、一般入試（前期日程・後期日程）の各入試による入学者間の学内成績の比較や教員採用試験の受験状況（教員採用試験の合否状況を含む。）と入試成績との関連を検討した結果を示した。

また、推薦入試及び一般入試（前期日程）については、平成31年度入学者選抜から入試方法を変更しており、この入試制度改革により入学生の学力に差異が認められるか検討するため、平成31年度入学者と平成30年度入学者の1年次前期の科目成績についての比較・分析及び1年次後期と通年の科目成績について比較・分析した。

## ○ 大学入学共通テスト実施に向けた取組

本年度は、大学入試センター試験に代わる大学入学共通テストを新たに実施するとともに、新型コロナウイルス感染症予防対策として、試験室の教卓に飛沫防止のパーテーションを設置することや、試験場への入場に際しての注意について、受験生や保護者等に周知するとともに注意を促した。

また、試験実施上のミスやトラブルは再試験など受験者に多大な影響を与えることから、大学入試センター及び上越市内の関係機関等との連携・協力を密にし、円滑な実施に向けた取組を行った。

具体的には、令和3年度大学入学共通テスト監督業務等に関わる全ての教職員に対する説明会に

おける周知徹底と欠席者に対する個別説明の実施及びリスニング試験における演習の実施並びに学内連絡体制や実施マニュアルの再点検、整備等を行った。

さらに、説明会において体調不良者への対応の予行演習を新たに実施し、受験者からの申出及び監督者による受験の中断における対応について共通理解を図った。

○ 大規模災害で被災した受験者への特別措置

東日本大震災等により被災した志願者の進学機会を確保する観点から、前年度に引き続き、当該志願者の入学試験に係る検定料を全額免除とする特別措置を実施した。

また、令和2年7月豪雨で被災した志願者への特別措置を追加した。

**イ 優れた点及び今後の検討課題等**

大学入学共通テスト及び個別入試において、ミスのない正確な入試を実施するために全学的な連携体制の下で万全を期した結果、大雪や体調不良者への対応も含め、無事実施することができた。

今後は、新学習指導要領に対応した令和7年度入試、一般選抜（前期・後期）の面接の得点化及び大学入学共通テストと個別入試の配点比率について検討を行う必要がある。